

れいわ ねんど
令和5年度

てらんかいかんしょう
展覧会鑑賞のしおり

まいにち
テーマ 毎日がアートだ！ — 花をさかそう みんなで満開 —

本展は、『毎日がアートだ！ — 花をさかそう みんなで満開 —』がテーマの、柏木小学校の子どもたちの展覧会です。「毎日がアートだ！」のアートとは、「芸術・美術」という意味と、「技術」の意味を含んでいます。特別な人しか生み出すことのできない芸術作品ということではなく、毎日の生活の中にアートがある、という意味です。文学・音楽・美術・舞踊・演劇などはもちろん、衣食住がアートになり得るし、自然や街並を再発見するなかでもアートと出会うかもしれません。各教科などで学習したことも、子どもたちの日々の生活全て視点を変えればアートになるかもしれません。

サブテーマの「花をさかそう！ みんなで満開！」のように、どの学年の展示にも「花」をテーマにした作品があります。「花が咲く」あるいは「花ひらく」には、明るく華やぐイメージがあり、「成果があらわれる」などの意味もあります。子どもたち一人一人の才能が花開く機会になりますように。

また、展覧会を通して、子どもたちの日頃の学習の成果を、保護者の皆様、地域の皆様へお伝えし、本校の教育活動へのご理解を深めていただく機会としております。そのため、3年、4年、5年、6年と学年が上がるにつれ、新しい材料や道具類を用い、造形経験を総合的に生かした表現となっていることが感じられるよう会場を構成しています。また、国語や社会科など他教科での学習との関連も考慮した内容となっています。

子どもたちが、夢中になって造形活動に取り組んでいる時には鼻歌ともなんとも言えない、「天使の羽音」と勝手に名付けた音が図工室に広がります。何より、そんな空気を展覧会場で感じていただけたら幸いです。

最後になりましたが、保護者の皆様にはご家庭での材料集めや用具の準備など、日頃よりご協力くださり、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



☆ 柏葉学級



「クレヨンと えのぐの つみき」 (絵・1～3年)

ブロックはみんなが大好きな遊び。それを画用紙の上でやってみることにしました。○、△、□をクレヨンで直接描いたり、紙を切り抜いて絵の具で色付けしたものを貼ったりして、形を作っていました。どんどん想像が広がって、周りに絵を描いたり背景の色を工夫したりして、楽しい作品ができました。

「名前をデザインしよう」(平面・4～6年)

一日に何度も読んだり書いたりする自分の名前。その中の一字をかっこうよく素敵にデザインして自分の好きなモチーフをはめ込みました。カッターや熱線カッターの扱いもゆっくりと丁寧にできるようにがんばりました。

「おしゃれな鳥」(立体)

絵の具を練り込んだ紙粘土で体の部分を作り、羽は好きな色に染めた和紙を切り取って、一枚一枚と丁寧に貼りました。巣の中には、たまごが。やさしく温めたたまごからは、どんな赤ちゃん鳥が生まれるのでしょうか。

「葉っぱのお皿」(立体)

柏葉学級は「柏の葉」と書きます。柏木小学校のシンボルでもある柏の葉をよく見ながら、大きな葉っぱを土粘土で作ってお皿にしました。美味しいお菓子やお料理をのせてもすてきです。

「手芸 スウェーデン刺しゅう・ピース通し」(生活単元学習)

柏葉学級では、週に2回程度、刺しゅうに取り組む学習があります。糸通しや、玉結びなども自分で行っています。低学年から少しずつ自分のペースで進め、高学年になると難しい模様にチャレンジする人もいます。集中力を高めながら、ものを作る楽しさや喜びを味わっています。

「はくよう 花ばたけ」(共同製作)

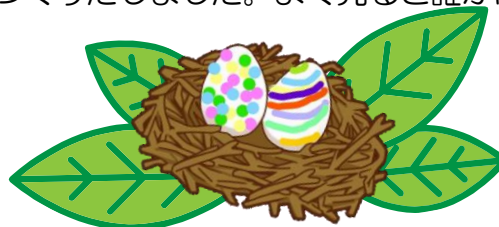
はじき絵やちぎり絵、トイレットペーパーの芯に切り込みを入れたスタンプ。一人一人がやり方を覚えて描いた花たち。みんなの花が集まってすてきな花畑になりました。少し早い春の訪れを感じてください。

☆ 1年生



「みているのはだーれ」(絵)

半分に折った画用紙に絵の具を垂らして、閉じる。そっと開いてみると、左右対称の不思議な模様が現われます。目を付けてみたら、あれれ？こっちを見ているみたいです。絵の具の模様から想像を広げて、不思議な生き物をつくりだしました。よく見ると誰かに似ているような気がしませんか？



「このたまごだれのたまご」(工作)

新聞紙を1枚、2枚と重ねながら丸めていくと、様々な形や大きさに変化していきます。「どんな形のたまごにしようかな」と、考えながら力を込めて丸めました。

形が決まると、今度は色でもう一工夫です。折り紙を様々な大きさにちぎって、貼り重ねました。「このたまごから、こんな生き物が生まれてほしい」と、想像しながらつくりました。

たまごを温める巣は何か使えるか考えて、冬休み中に集めた材料でつくりました。どんな生き物が生まれてくるのでしょうか？

「ひかりをたべたどうぶつたち」(工作)

『このたまごだれのたまご？』から生まれてきた動物たちです。

透明な袋にカラーセロハンなどを入れて、モールなどでキュッとしばって、目をつけて、光を通したりキラキラ反射したりする、まるで光を食べたかのような動物たちが生まれてきました。

「花さき山」(共同制作)

花さき山に咲く花々は、一人一人の優しい心から咲いた花です。紙皿を自分が咲かせたい花の形に切り、色や模様を組み合わせて色付けをし、華やかに仕上げました。

(2年生の海中さんぽのブラックライトで光る魚たちのそばで咲いています。)

☆ 2年生



「ふしぎなタネをまいたら」(絵)

1年生の時、生活科で朝顔を育てました。朝顔の種をまいたら、芽が出て、つるがのびて、朝顔の花が咲いて、やっぱり元と同じ朝顔の種ができる不思議。星の種をまいたら、やっぱり星ができるかな？ 白い画用紙に、こんなふしぎなタネをまいたら、どんな芽が出て、葉っぱがついて、花が咲いて、実になるかな？

生活科での学習から、想像を広げて絵に表しました。表したいことに合わせて、色の組み合わせを考えたり、色を混ぜたり、絵の具の使い方も工夫しました。

「ちぎった紙から」(絵)

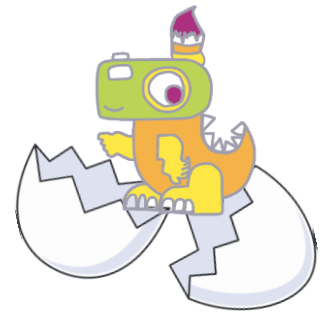
クラフト紙をちぎって、偶然できた形をいかしたり組み合わせたりしたこと、思いついたことを絵に表しました。動物の親子？ 海の中？ にぎやかな街？ 宇宙？ ちぎった紙からさまざまな世界が生まれ、お話が生まれました。発想する力を高めることに重点をおいた作品です。

「ゆきふる国のものがたい」(絵)

自分はその国の王様になったつもりで想像のお城をかきました。絵の具の水の量や白を混ぜて色をつくる技も身につけました。たくさんの自分の色をつくり、オイルパステルの白い線による絵の具のはじきも生かして表しています。

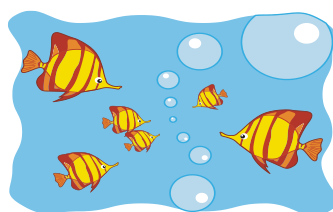
「たまごから生まれたよ」(工作)

ふしぎな卵からふしぎな生き物が生まれました。「こんな生き物が生まれたら楽しいな」と想像して、紙粘土で表しました。卵は風船に和紙を何枚も貼り、張り子の技法で殻をつくりました。



「海中さんぽ」(共同制作)

海の中をさんぽできたらどんな感じかな。見る人が動くと魚たちも揺れます。実際にいる魚を図鑑で調べて、驚くほどいろいろな形や色の魚がいることや、基本の体の構造は共通していることなどにも気付いている様子でした。クラフト紙を袋状にして中に詰め物を入れた海の生き物は、明るい海でゆうゆうと泳いでいます。深海の暗い海では、ブラックライトで光る魚たちがゆれています。下には1年生の『花さき山』の花々も光っています。不思議な光の世界を楽しんでください。

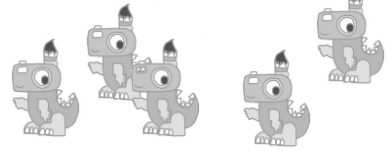


☆ 3年生



「スタンプ スタンプ つづくお話」(紙版画・絵)

同じ形を何度も繰り返すことができる、版画の特徴を生かした表現となっています。だから、「スタンプ スタンプ つづくお話」



です。繰り返すことで、一つの版でも、象の群れになったり、羽ばたく鳥たちになったりします。また、版と刷ったものとの向きが反対になっていることを生かして、出会って会話をしたり、たたかったり、さまざまなお話が読み取れる作品が生まれました。

「春の花さいた」(紙版画・絵) ※3・4年生共通

鉢植えの花たちを、よく見て絵に表しました。全体の感じや、一枚の葉や花びらにもたくさんの色があること、よく見たら筋があることなど、理科での学習の時の目で見ること大切になりました。本物そっくりにかけることだけがいいのではありません。かきたいところを大きくくわしくかいて、自分が見て感じたことを大切にしたり、美しく楽しい模様に変えたりするなど、自分の表し方で絵にしました。

「ギコギコ トントン 何になるかな？」(木工作)

図工室のすみの材料置き場の木切れを見ていると、なんとなく面白い形で気になったり、何かの形に見えたりする。そうすると、木切れはゴミではなく、材料の宝の山に見えてくる……。こんなものをつくりたいと思って材料をさがすと、これもあれも使えそう。材料を触って組み合わせているうちに、なんとなくおもしろい形ができて、そこからつくりたいものを思いついたりもしました。そのような活動のなかで、自分がつくりたいものに合ったつくり方や、道具の使い方など、さまざまなことを学んでいきます。



「ダンボールで何つくろう」(段ボール工作)

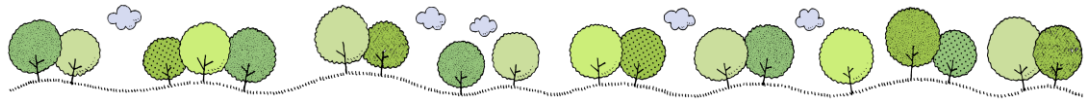
段ボールの箱を開いて、ちぎったり、切ったり、折ったり、穴をあけたり、紙(ライナー)をはがして波型の中芯を出したり、組み合わせて貼ったり、厚みを生かして重ねたり……。段ボールに関わり、全身でその特徴を感じ取りながら、思いついたものをつくっていききました。



「柏木一丁目一番地」(共同制作)

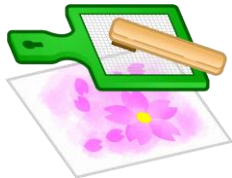
同じ大きさの板目紙の上に、色画用紙を丸めて立てて建物のようなものをつくりました。材料は共通ですが、カッターナイフで扉や窓をあけて、形や色を組み合わせて、自分らしい建物をつくりました。一人一人の作品と、材料の特徴を生かしてみんなで花をかいたモニュメントといっしょに展示して街のようにしました。

☆4年生



「絵の具のさんぽから」(はり絵)

絵の具は、筆を使わなくても楽しめます。ぬらした画用紙にたらしてジワッとにじませて、散らして。霧吹きみたいに。ビー玉に絵の具をつけて転がして。型をつくりローラーで刷って。いくつも同じ形をつくって。楽しんだ跡が、いろいろなものに見えてくる。「ここに鳥がいる」「恐竜の化石発見」「この部分がきれい!」など、みつけたものを組み合わせて貼り、絵に表しました。



「春の花さいた」(絵) ※3・4年生共通

鉢植えの花たちを、よく見て絵に表しました。全体の感じや、一枚の葉や花びらにもたくさんの色があること、よく見たら筋があることなど、理科での学習の時の目で見ることも大切にしました。本物そっくりにかけることだけがいいのではありません。かきたいところを大きくくわしくかいて、自分が見て感じたことを大切にしたり、美しく楽しい模様に変えたりするなど、自分の表し方で絵にしました。

「ここにいるよ」(木工)

全員同じ材料の角材から切り出して、たまかな体の構造をつくり、その他の板材などを組み合わせて一人一人ちがう、楽しい想像の生き物をつくりました。「立つ」ことが条件です。木切れの形や厚さを考え、組み合わせを工夫して釘打ちをするためには、のこぎりや金づち、錐などの道具の使い方を身につけることも大切にしています。ろうで

「土と炎のワンダーランド」(焼き物)

手をいっぱい動かして、まずは粘土の感触を十分に味わいました。たたら板を使って初めての板づくりをしました。こんな世界があったらいいな、楽しいな、と想像したことをもとにして表しました。柔らかか粘土が乾いて固まって、火と出会うと色もかたさも変わります。ガラスも溶けて固まって、スベスベ気持ちいい!

「ひみつのすみか」(共同制作)

中学年の共同制作では、住まうことをテーマにしています。心地よい空間を段ボールなどの身近な材料でつくります。自分を取り巻く住環境に興味をもつきっかけになるかもしれません。段ボールの部屋の床には、光の花が映ります。本当に座ったり寝たりできる、段ボール製のベッドやテーブルセットもあります。子どもたちは、「災害の時に使えるかも」などと話しながらつくっていました。



☆5年生



「小さな美術館」(絵)

絵の具を混ぜて自分の色をつくり出し、6枚の13.5 cm×13.5 cmの紙の中に、一人一人の思いえがいたイメージを表現しています。にじませたり、筆の先で線や点を描いたり、色の濃さを調整してグラデーションにしたりするなど、多様な工夫が小さな画面の中に詰まっています。その6枚には題名があり、配置も考えて黒い台紙に貼っています。見る人によって感じるイメージが変わるはず。みなさんなら、どんな題名を付けますか？

「香り花さく」(絵)

3年生で花を見てかいたことや、旅行先での花のある風景、理科で花のつくりについて学習したこと、映像で見たものなどの経験をもとに、自分のイメージの花を絵に表しました。かき始めるときに、植物由来のいろいろな香りをかぐ活動を行い、視覚からだけでなく、嗅覚からもイメージを広げて絵に表しています。



「心をつつして」(木版画と木工)

風や水や光、感情、時間など形のないものも含めた自分のもつイメージを木版画で表しました。シナベニヤ板を彫刻刀で彫って、電動のこぎりで分割して、また彫って、刷って、刷る位置を考えて何度も重ねて刷って……。同じ版木を使っても形や色が重なって、異なるイメージの作品が何枚も生まれました。さらに木版画の版を電動系のこぎりで切って分割し、奥行きをもたせて半立体に再構成しました。そこに新たな色を付けることで、木版画と表したテーマは同じでも全く印象の異なる表現になることに気がきました。

「一瞬の形から」(工作)

白い布に液体粘土をしみこませて何かにかぶせたり、つるしたりして一週間おいておいたら、その形のままカチカチに固まりました。出来上がった不思議な形から、発想を広げて楽しい世界を表しました。

「雪月花」(共同制作) ※5・6年生共通

雪月花とは季節ごとの自然の美しさを表す言葉です。美術表現でも大切にされています。5年生は美術鑑賞教室でSOMPO美術館に行き、所蔵品であるゴッホのひまわりを見ました。そのひまわりから着想を得て作られています。ひまわりになるフォトコーナーも楽しんでください。

「ランチョンマット」(家庭科)

初めて重いミシンを一人で運んだ時も、電源を入れて針が上下した時も大興奮。緊張しながら練習を重ね、友だちと教え合い、縫えるようになりました。給食で使うのが今から楽しみです。

「小物づくり」(家庭科)

学んだ縫い方を使ってフェルトで小物作りに挑戦し、個性溢れる作品がたくさん完成しました。

☆6年生



「名画に入って」(絵)

世界や日本の名画と言われる作品から、お気に入りの一枚をえらび、自分なりに解釈して再表現しました。自分がその絵の世界に入っています。どこにいるか見つけてみてください。タブレット端末を使って、作品とポーズを取った自分の写真も入れて、作品の中で遊びました。



「物語のワンシーン」(木版画と木工)

日本や世界の誰もが知っているような童話や昔話をもとに、そのワンシーンを木版で表しました。彫る部分と残す部分の白黒のバランスを考え、彫り跡の美しさを生かそうとするなど、工夫して表しています。刷る紙の色を変えることで、全くイメージが異なる作品になることにも気づきました。展示している作品は、その中で自分が一番お気に入りのものです。木工の方は、木版の版に着色して絵にした後、電動系のこぎりで切って分割したものを立たせて再構成しています。木版と表したテーマは同じでも、平面から立体に変換することによって、全く印象の異なる表現になることに気づきました。版画と比較して見てみてください。

「ワイヤーアート」(アルミ針金の工作)

金属は硬い、形を変えにくいという印象があるかもしれませんが、生活の中では自在に形を変えて、さまざまなものに使われています。ここでは、アルミの針金を用いて、材料の光った感じ、金属であるが曲げやすい特徴や線材としての特徴などを生かして、つくりたいものを表現しました。線材を集めたことで、面や内部に空間を感じながら表現することができました。

「願いがかなえる器」(焼き物)

社会科で、縄文土器や弥生土器について学習をしました。何千年も前のものでありながら、そのデザイン性のすばらしさに驚かされます。使うだけでなく、当時の人の思いや願いが込められているようです。令和に生きる6年生は、どんな思いや願いを込めて器をつくっているのでしょうか。

「雪月花」(共同制作) ※5・6年生共通

雪月花とは季節の自然の美しさを表す言葉です。日本の美術では、季節や自然の美しさの表現はとても大切にされています。大きなヒマワリも、材料や表し方から考えてつくった一人一人の花、雪の結晶、そして月も共同制作の一部です。中に入って空間を味わってください。

「マイバッグ」(家庭科)

一枚布から箱型になったときの驚きと喜びがぎゅっと詰まったマイバッグは、刺しゅうや飾りつけ、頑張って縫い直した跡も多種多様。好きなデザインを見つけてください。

「法被」(家庭科)

今年度の運動会表現ダンスのためにオリジナルで作成した法被です。「自分の真実」を見る色といわれる藍色で染まった法被の中に、「自分の強い思い」が込められた漢字を一字書きました。

☆各教室前の廊下にて書初め展、1階の多目的ルームで子ども園の作品展が同時開催されています。併せてご覧ください。